12
2009

熊歯会報

「笑顔ヘルCキャンペーン」　中央イベント

Kumashi　Kaihou

2009年12月15日
No.644

熊本県歯科医師会

熊歯会報 12月号

2009

―表紙に寄せて―

人形劇を見ている時の子どもたちの目の輝きが印象的でした。

（HK）

歯科医師の倫理綱領

われわれ歯科医師は、日頃より歯科医学および歯科医療の研鑽を通じて培った知識や技術をもって、人々の健康の回復と疾病の予防のために貢献するものである。

一、専門職として歯科医学と歯科医療の発展のために尽くし、医療倫理の実践に務める。

一、専門職であることを念頭に、法を遵守し適切な説明を行い、常に愛情を持って患者のために社会的使命を果たすように努める。

一、自己の知識、技術、経験を社会のために提供し、社会福祉および国民の健康向上のために努める。

社団法人　日本歯科医師会

もくじ

巻頭言（理事 片山 幸博）……3

第9回理事会……4・5

笑顔ヘルCキャンペーン……6～10
（中央イベント・宇土・上益城・天草・八代・玉名・水俣芦北）

委員会だより……11～21
（地域・保健、センター・介護、厚生・管理、学校歯科、厚生・管理、医療対策、広報）

九地連厚生行事……22・24

郡市会だより……25～29
（下益城・人吉・天草・玉名・荒尾・八代）

歯の健康ランド……30

新人会員……31

会長の動静……32

会務報告……32～34

くどいぐらいの説明を!!

理事　片山　幸博

医療対策理事に就任して、はや半年が過ぎました。この半年間の事例も多岐にわたり我々の委員会でも対応に苦慮せざるをえない問題も数件を数えております。医療対策の委員の方々には大切な診療時間の合間を見て、該当の会員や患者さんへの連絡をして頂いており、解決の糸口をつかむ第一歩を担ってくださっています。

さて、情報過多の昨今、それに踊らされている事例の多さが我々の業界にも目立つようになってきました。インターネット上では項目によっては、何十万・何百万件という情報がひしめき合っています。患者さんはこのような善悪の判断しがたい情報で武装し、クレームを付けてこられます。また、モンスターペイシェントと称される、とてつもないクレーマーも横行してきました。その上、昨年のリーマンショックを機に、心身に痛手を負った方が増してきています。このようなことから、過去の事例経験だけでは判断の材料が乏しくなってきているのも事実です。そのために、私どもは新聞の記事や医療苦情に関する本、また患者さんの気持ちなど心理面の書物のチェックを欠かさぬように努めています。

勿論、「何気ない感情のもつれ」が多くの苦情原因となるため、大半は、もつれた糸を少しだけ元に戻すだけで、あっという間に解決していく場合もあります。

「何気ない感情のもつれ」と軽く述べましたが、診療において患者さんとのコミュニケーションは言うまでもなく、基本中の基本です。歯科医師側では、患者さんの選択は不可能なのでなかなか難しいことではあります。しかし充分すぎるぐらいの説明（くどいぐらい）をした上で承諾を得て頂きたいのです。「何気ない感情のもつれ」が苦情に起因している患者さんのほとんどは、異口同音「説明不足（説明に誠意が見られない）」を挙げてこられます。ここから快方に向かうか否かは、我々の歯科医師側の資質が大いに関わってくることもあります。

「医は算術なり」とばかりにあらぬ方法で金儲けに突っ走っている医療人？が残念ながらいるようにも思えます。

老若男女を問わず、歯科医師として第一歩を踏み出した日を省み、医療人としての自覚を再確認することが、この分野における重要なことだと思います。苦情を言われるのは他人ごとではありません。いつ自分の身に降りかかってくるかわかりません。そのためにもいつも歯科医師としての「心」を大切にして頂くことが、我々委員会の願いです。

理事会報告

オンライン完全義務化は、事実上撤廃

― 第９回理事会 ―

11月24日（火）午後７時より県歯会館第１会議室において、浦田会長ほか全役員出席のもと、議長を浦田会長、議事録署名人を加藤、八木理事として第９回理事会が開催された。

開　会：小島副会長

会長あいさつ要旨

民主党の体制が整いまして、ようやく陳情の窓口が明確になってきました。早速、日歯では19日に大久保会長が民主党の厚労省担当副幹事長の議員に歯科界の現状について説明に行かれました。それと、レセプトオンライン化については、明日25日に正式に厚労省令改正が発表されますが、10月に出た改正案よりは緩やかになっており、オンライン完全義務化が事実上撤廃された内容となっていると聞いております。また、特措法改正については、現在開会中の国会には提出されないことになりましたが、来年１月からの通常国会には提出される可能性があります。それ以上に、日歯が現在全力を挙げて取り組んでいるテーマは22年度の診療報酬改定であり、詳細については後ほど日歯報告でお話しいたします。一方、本会の方に目を向けますと、県議会議員の先生方との懇談会を12月初めに開催し、本県歯科保健条例の制定に向けて協力を要請していきたいと思っています。本日も慎重審議の程よろしくお願いいたします。

会務報告：（自：10月23日～至：11月18日）

総　　務：理事会、常務理事会、裁定審議委員会、歯科医療安全管理体制推進事業、総合政策推進プロジェクト会合、タウンミーティング、日歯理事会、ベストスマイル・オブ・ザ・イヤー授賞式、陸上自衛隊西部方面隊五十四周年記念式典、警察歯科医会全国大会、四国・九州・中国地区役員連絡協議会、都道府県専務理事連絡協議会

社会保険：個別指導、点数改定説明会、レセプトオンライン化、歯管の取り扱い

地域保健：笑顔ヘルＣキャンペーン

厚生・管理：未就業歯科衛生士リカバリー研修会、シニア倶楽部、熊本国税局管内税務指導者協議会

広　　報：ＴＫＵ「医療あれこれ」、ＮＨＫテレメッセ

学校歯科：学校歯科研修会、福岡県学校歯科保健研究大会、日学歯理事会、全国学校保健研究大会

医療対策：医療相談苦情事例報告、九州各県歯科医療安全対策担当者会

センター・介護：県介護予防研修会

学　　院：学院推薦入試

国保組合：国保組合被保険者全国大会

以上、各担当役員より報告がなされた。

会務報告その２：

１．退会会員

○井手 一之　会員（ 終身会員／熊本市 ）
10月25日ご逝去

○中川 真樹　会員（ 一 般 ／ 熊本市 ）
10月31日付閉院

２．日歯報告

浦田会長より、民主党の陳情窓口、医学部入学定員増加に関係する大学設置基準の文科省令改正、日歯「Ｔｏｏｔｈ Ｆａｉｒｙ」事業第１回業者引渡し、行政刷新会議「事業仕分け」における8020運動特別推進事業の評価結果、歯科医師連盟のこれからについてのアンケート結果、中医協における22年度診療報酬改定の視点等と方向の議論、レセコンの購入等に関する補助事業の実施、診療報酬確

定件数・確定金額の推移、医師・歯科医師・看護師の専門性資格、日歯年金の月次運用報告、難解な歯科用語、口腔ケアとインフルエンザ対策研究について、資料に基づいて詳細な説明・報告がなされた。

３．関係機関・団体からの推薦依頼

○熊本県医療審議会委員／熊本県医療政策総室会長　浦田 健二　任期：委嘱日～２年間

４．後援名義使用依頼

第58回熊本小児保健研究会からの依頼を了承した。

５．九地連関係、三地区等の平成22年度の開催県

本県では、九州各県厚生担当者会議と近県社会保険担当者会議を担当する。

６．部活動補助金交付申請

熊本デンタルソフトテニスに２万円を補助する。

７．ＣＴ撮影に関する会員への調査〔学術委員会所管〕

11月末の全会員発送時にアンケートを送付する。

８．社団法人熊本県歯科医師会会館利用内規の設置

管理の都合により、今後、会館を利用出来る者は、歯科医師会関係者・関係団体、会館管理担当役員が利用を認めた者とする。また、学院敷地内駐車場の使用は、本会主催の講演会・研修会で来場者が多い場合に限ることとする。さらに、会館・設備使用申込書にも駐車場の注意事項を明記し、会館専用駐車場の案内図も申込書と一緒に渡すようにする。

９．未入会者用アンケートの内容

総合政策推進プロジェクトチームでアンケート内容を検討し、常務理事会の議を経て、未入会者に発送した。回答がある程度出揃い、間に合えば12月の各郡市会長・専務理事会議の資料とする。

10．事業企画

○社会保険・医療対策・学術合同研修会
12月23日（水・祝）午後１時より、県歯会館において開催する。

○歯科医療に関する懇談会（県議会議員との懇談会）　〔総務委員会所管〕
12月３日（木）午後６時30分より、県歯会館において開催する。

○本会活動内容（主に、歯の衛生週間、笑顔ヘルＣキャンペーン）を県民にアピールするために新聞の作成・発行〔広報委員会所管〕

11．事業実施報告

○学校歯科研修会〔11月７日（土）開催〕

○未就業歯科衛生士のためのリカバリー研修会〔10月31日（土）・11月１日（日）開催〕

12．各会計10月末現況

資料に基づいて報告が行われた。

13．12月行事予定

12月の理事会は、22日（火）午後５時より開催する。

14．その他

○医療対策委員会より、セクハラ等に対する社会的責任について注意を喚起する文書を全会員に送付した。

○現在、総務委員会でガイドブックを改訂中である。各委員会の事業紹介の部分については、各担当役員に執筆の依頼がなされた。

○社会保険委員会で個別指導時に立会いを行っており、未入会者にはその都度、本会への入会を働きかけている。

協　議：

１．新入会員の承認〔承認〕

一般会員２名の入会を承認した。

２．平成21年度第２回各郡市歯科医師会会長・専務理事会議の運営〔承認〕

12月５日（土）午後３時より、県歯会館において開催する。資料については事前に配布することとした。さらに、事前質問については回答の擦り合わせを行った。

３．平成22年１月、２月、３月の行事予定〔承認〕

通常代議員会を３月20日（土）午後２時より、終了後概ね午後５時より通常総会を開催することとした。さらに、３月の理事会は27日（土）に開催することとした。

４．九地連協議会〔平成22年２月13日 開催〕への対応〔承認〕

本県が担当県であることから、ホテル日航熊本を会場とすることに決定した。本会役員は全員出席することとした。

５．平成22年度総務事業計画（案）〔承認〕

原案どおり承認し、３月の通常代議員会・通常総会に議事として提出することとした。

６．その他

○本会基本方針と事業実施状況ならびに今後の予定と課題を、特に、今後の課題について企画した理事が説明を行い、様々な意見交換を行った。

監事講評：遠山監事、片山監事

閉　会：前野副会長

（広報　加藤　久雄）

笑顔ヘルCキャンペーン

来場者900人を超える

中央イベント

11月８日（日）午前11：00より上通りびぷれす広場において、熊本県歯科医師会・衛生士会による8020歯からはじめる「笑顔ヘルCキャンペーン」の中央イベントが行われた。

笑顔ヘルCキャンペーンは、いい歯の日にちなんで「180万熊本県民お口の健康運動として」歯の健康の重要性に関する意識の高揚と健康維持に必要な正しい知識の普及を図ることを目的としたイベントである。

前野副会長の開会の挨拶

無料歯科健診・歯科相談
お口の健康状態は、どうでしょう？

真剣な眼差しで人形劇をみつめる子供たち

歯科衛生士によるブラッシング指導

アンケート調査（歯磨剤か歯ブラシ、健康手帳を進呈）

歯科相談も数多く来場
子供の歯並びについてや具体的な治療法、高齢になった家族が、咬めないのですがどうしたらいいのでしょう？などの相談が寄せられた。

来場者に優しく応対

歯磨きを手伝ってもらいインタビュー

口臭測定器を使った口臭チェックのコーナー
僕も計ってみるぞ！

地域保健委員会小田副委員長と衛生士会による人形劇

今年より参加の歯科衛生士学院のPRも大盛況

バイキンマン？登場

来場者は900人を超え大盛況であった。また場所が上通り入り口のびぷれす広場ということもあり、たくさんの人がイベントを目にし、来場者以上にイベントをアピール出来たのではと思う。

（広報　加藤久雄、立本尚史）

宇　土　フッ素塗布コーナーは大忙し

11月７日（土）宇土シティーセンターコートにおいて『8020歯からはじめる笑顔ヘルCキャンペーン』を開催した。晴天にも恵まれ、またいくつかのイベントが開催されており、会場には大勢の方が来場された。午後１時30分から４時30分まで会員歯科医師10名が２交代制で歯の無料相談を、歯科衛生士６名がブラッシング指導や無料フッ素塗布などを行った。アンケートに記入された方には歯ブラシ、歯磨き剤、風船、パンフレットなどの無料配布も行った。（アンケート記入91名、来場者総数100余名）

歯の相談コーナーでは、子どもの歯並びについてや歯の被せものについての相談などあらゆる質問に担当歯科医が熱心に対応していました。フッ素塗布コーナーでは、子どもと親御さんが次から次に列を成し、担当衛生士は対応に大忙しでした。短い時間でしたが、私たち会員歯科医師にとっても、参加して下さった地域住民の方々にとっても、有意義なイベントとなった。医院の中だけでなく外へ出て、歯とお口に関する情報を地域の方々に直接発信していくことはとても大切なことだと思います。

子供の歯並びの相談が多かった

（青山　泰子）

上益城郡　会場案内が今後の課題

11月８日（日）上益城郡嘉島町にあるイオンモール、ジャスコ店内において上益城郡歯科医師会主催による「笑顔ヘルCキャンペーン」が開催された。

開催時間は午前10時から午後４時までで、主に無料歯科相談、歯科健診を行い、相談者には健康手帳、歯ブラシ、歯磨き粉を配布し、満足げであった。

無料歯科相談、健診では会員４名が休む時間もなく熱心に説明にあたっていた。また、会場には、パネル展示があり、そのパネルを見ている人も数多くみられた。さらに上益城郡衛生士会の協力を得て、３名の衛生士に出務してもらい、ヘリウムガスで風船を膨らまし、それにおもりを付けて配布するのに忙しい様子であった。

当日は館内放送も何度かしてもらったものの、あいにく「バンダイ」のイベントと重なり、例年より、来場者が少なかったのは残念であったが、それでも、相談者115名、風船500個がなくなるほどの盛況ぶりであった。

相談者もやさしい対応に満足げ

今後の課題として、店内が広いため、会場の位置がわかりづらく、そのために迷ったという方もおられたので、店内のいたるところにポスター掲示、チラシも配布していければもっと来場者数も増えるであろうし、また、今後は、位相差顕微鏡の活用、衛生士によるブラッシング指導に力を入れていきたい、と考えている。

いずれにしても、継続的に毎年行うことで県民の啓発には十分実のあるものになるのではないかと思われる。

（玉置　孝信）

天　草　「歯の健康」の大切さが啓発された

11月14日（土）ＰＭ１：00～３：30栖本福祉会館にて「平成21年度天草市健康フェスタ（東地区）」とタイアップの形で「笑顔ヘルＣキャンペーン（天草地区）」を開催した。これは毎年「あまくさ福祉祭り」とのタイアップ形式でしたが来場者数が少ない状況だったので今年から「健康フェスタ」のメインとして取り入れ、本来の熊日新聞社、花王株式会社に加え天草郡市医師会、薬剤師会、歯科衛生士会天草郡市支部、熊本県国民健康保険団体連合会、天草市食生活改善推進員協議会が後援で新しい試みによる開催となった。

歯科をメインに歯科健診、相談、フッ素塗布、ブラッシング指導コーナーを設置さらに健康相談、身体測定、骨密度測定、血管年齢測定、食事バランスチェック、エアロバイク体験などの運動紹介もあり、啓発ポスター展示場を設け来場者数が120人と例年の２倍にもなった。

天草市健康フェスタとタイアップ形式で行われた

「健康フェスタ」としては今年３回開催し延べ約1000人の来場をいただき、少しずつですが「歯の健康」の大切さが啓発できたと思われます。　（小田 哲也）

八　代　60才以上の割合が多かった

11月14日（土）10:00～15:00、八代市ふれあいフェスタ（主催：八代市・八代市社会福祉協議会）の会場内で、笑顔ヘルＣキャンペーン・無料歯科相談健診を行った。

やつしろ市ハーモニーホールの３階の会議室を使って、市健康増進課は、ヘルスアップコーナー（主に、体組成測定・血管年齢測定・骨密度測定ほか食事指導・禁煙相談・認知症状相談などの内容）を以前から行っていますが、２年前から、その隣室で、歯科相談・健診を行うようになった。ヘルスアップコーナーを訪れた人たちの中で、歯科のコーナーを希望する方に、相談・健診を行っており、一昨年、昨年と160～170人の来場者があり、今年も160人の方々が訪れた。

アンケート（160人のうち95人が回答）を行ったところ、71人の方（約70%以上）が、ふれあいフェスタの中に歯科相談・健診があることを既に知っていて来訪していることがわかり、大分、周知されてきていることが分かった。また、歯の衛生週間事業に比べると、隣室のヘルスアップコーナーを訪れた人たちということで、60歳以上の方々の割合が多く、その意味でもこの時期にこの催しをこの場所で行う意味があると考えられました。

ふれあいフェスタに感謝

また、アンケートの回答の中には、①質問に詳しく答えていただいてありがたかった。②色々詳しく子供の歯の磨き方を教えていただき、ためになった。③ふれあいフェスタに参加できたことに感謝しています。

などの意見が多数あり、少しでも住民の皆様の歯科保健意識の向上に役立てられれば…と考えています。

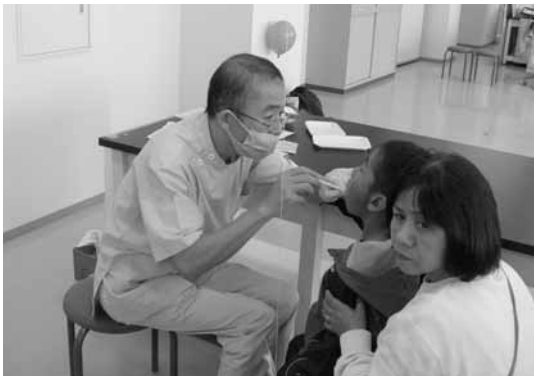
※なお、この日の内容（含写真）やアンケート結果は、八代歯科医師会ホームページの
http://www.yda8020.com/festa.html
に掲載しています。　（山口　　透）

玉　名　歯科保健コーナーは大盛況！

～玉名市健康食育福祉フェア～

11月15日（日）午前９時30分から午後３時まで九州看護福祉大学において、玉名市・九州看護福祉大学・玉名市社会福祉協議会の主催にて「玉名市健康食育福祉フェア」が開催された。大学のキャンパス内では健康関連や食育関連のイベントやアトラクション、講演会、バザーなどが行われ大変な賑わいをみせた。そんな中で歯科保健コーナーが設けられ歯科医師２名、歯科衛生士４名による歯科健診、相談、ブラッシング指導、フッ素塗布が行われた、開始早々から盛況で口腔衛生への関心の高さがうかがわれた。

特に目立ったのは若いお父さんお母さんが子供さんのカリエスに関する質問や歯列不正への相談のほか年配者の欠損後の義歯やインプラントの相談等が多かった。ブラッシング指導、フッ素塗布では染め出しを行い衛生士が悪戦苦闘しながらぐずる子を宥めながら頑張っていたのが印象的であった。



しっかり磨きましょうね！

歯科保健コーナーへの来場者数は110名を超え終日賑わいをみせ盛況のうちに幕を閉じた。今回このような啓発イベントに参加することによってもっと口腔衛生に関心をもつ人が一人でも増えてくれれば嬉しいことである。

（山本　浩喜）

水俣・芦北　自分でつくろう、元気な未来

～水俣健康まつり～

11月22日（日）水俣市もやいホールにて「自分でつくろう、元気な未来」をテーマに健康まつりが行われ、歯科医師会は歯科健診（妊婦・一般）歯科相談・口臭測定、衛生士会はフッ素塗布・歯みがき指導を行った。医療・介護・保健等の関係約15団体が参加し健康度チェック（血圧・体脂肪・血管年齢・骨密度・足指力測定）健康相談・介護認知症相談・栄養相談・介護用品の紹介・生産品展示即売などで賑わった。

朝からの小雨とインフルエンザの影響で人出が危ぶまれたが会場は健康に興味のある老若男女でいっぱいとなった。歯科健診相談（60件）口臭測定（40件）は待つ人もあり歯周症・入れ歯に関する相談が多く口腔に対する関心が高いことが伺われる。午後からは「母と子のキラキラ歯っぴーコンテスト」

健康に興味ある人でいっぱい

「8020高齢者コンテスト」の表彰状授与が宮本水俣市長より行われた。（市長は同時開催の「環境モデル都市フェスタ」の中で「ごみゼロ推進」を宣言している。）来場数は約300人例年に比べて親子連れが少なかったようだ。

（蓑田　　亮）

歯科医療は生命を支える

― 九州各県地域保健担当者会 ―

地域保健委員会　センター・介護委員会

10月３日（土）午後２時より熊本県歯科医師会館にて21年度九州各県歯科医師会地域保健担当者会が開催された。

今回の会議では、日本歯科医師会から池主憲夫常務理事、角町正勝理事にご出席をいただき、日本歯科医師会への要望及び質問、ならびに九州各県の地域歯科の取り組みについて話し合われた。

全体会では、座長に本県の宮坂圭太常務理事、副座長に次回開催県である福岡県の今里憲弘理事が選出され協議が行われた。

まず、池主常務理事より日歯報告として、今回の選挙にて与野党が逆転したが、日歯としては与党を中心に、『歯科医療は生命を支える』ということを位置づけにして活動を行っていくとの報告があった。

次に、角町理事より社保委員会に対して歯科総医療費を上げていくアプローチを行っていることが報告された。

協議の中では、日歯への質問として、平成21年４月に介護保険報酬改定があったが、「口腔機能維持加算など施設側の算定であり、私達、歯科医師への算定は特にない。このような不平等では意味がない。今後、24年度の医療保険、介護保険同時改定に向けて今後の取り組みは」との質問に、今回の改定により施設とのかかわりが深くなり、これからの時代に対応するためには必要。多少のボランティアは今後のためにも必要であるとの見解が示された。

次に、「介護の必要な高齢者の増加が見込まれるが、歯科界の今後の取り組みについて保険点数のことも含めて、どのような状況を想定し対応していくのか」との質問に、『歯の健康力増進』『在宅歯科支援組織』を進める。また今後も行政や日歯からの、アンケート等はしっかり記入してほしい。これを平成24年度の同時改定時に生かしていきたいとの方向が示された。要望としては、現行の口腔保健センターの機能充実を図り、地域における医療連携歯科の拠点となるべき地域歯科医療センターに対しても、地域医療再生臨時特例交付金を活用できるよう働きかけをお願いしたいとの意見もあった。

連携が今後の課題

また、これらの議題の後にも九州各県の地域歯科の取り組みについて報告があった。この後、各分科会に分かれ会議が行われた。

分科会Ⅰ（地域保健・産業保険）　分科会Ⅱ（要介護老人・障害者）

分科会Ⅱは、本県のセンター・介護松岡拓治理事を座長として、今後の訪問診療の行方等について話し合われた。やはり、連携の重要性が上げられ、連携の難しさを今後の課題とした。

（センター・介護　堀尾慎一郎）

どうなる？　日歯年金

― 九州各県厚生担当者会 ―

厚生・管理委員会

10月３日（土）午後２時より沖縄産業支援センターにて九州各県厚生担当者会が開催され、本県から竹下理事と有働が出席した。沖縄県歯科医師会比嘉会長、日歯・日高常務理事より挨拶があり、座長に沖縄県歯・金城常務理事、副座長に来年開催地の熊本より竹下理事が選出された。日歯より公益法人制度改革に伴う日歯福祉共済制度と日歯年金制度について報告があった。中間答申として日歯福祉共済の保険業法は適用除外を目指し、適用除外とならない場合は、協同組合への移行または保険会社への委託の２つの選択肢を検討しているが、平成２３年の保険業法の見直しを見て今後の動向を考えていく。日歯年金の運用方針（資産配分）に関しては、中長期的観点から運用方針として基準とする「策定資産配分」を策定し短期的な市場動向に左右されず、当該「政策資産配分」を維持するように運営し、場合によっては運用会社を変えていくことも考えている。また、女性の会員組織率向上のため、女性歯科医師の活動に関する検討委員会を設置し、女性会員が利用しやすい生涯研修制度の充実、休職後の復帰支援、情報提供システムとネットワークの構築あるいは入会金・会費の見直しなどを検討している。今後未入会者の増加は難しい問題だが若い先生方、女性の先生方のパワーを会務に注入し活性化を図り、各都道府県歯会に協力を求め取り組んでいきたいと述べられた。

各県の事業計画及び予算についての協議

本県は、今年度から新たに歯科衛生士再教育事業と医療安全管理推進事業を追加したことを伝えた。福岡県は、総務部で厚生関係の事業を扱い、慶弔見舞金と障害共済を一般会計で運営、生涯共済制度に関して平成23年の保険業法をみて廃止も検討。長崎県は、事業活動の前期繰越収支差額が遊休財産になるのか検討中。大分県は、３年前から共済に関し会計常務が担当している状況。宮崎県では、対外啓発・医事処理・厚生関係・レセプトオンライン化対策等を、また鹿児島県は、歯科助手教育研修、健康管理や福祉共済に関する情報提供等を事業計画として挙げ、沖縄県は、今年から厚生と会計が一緒に事業の運営を行っている。

熊本県での健康診断受診率はバツグン

各県の協議題は以下の通り

・　共済互助制度における会員への入院状況の把握（佐賀）

本県では県歯会への自己申請により把握、また事務局で歯科医師国保のレセプトをチェックし会員に申請を行うように連絡し、後期高齢者、社保の会員については定期配布物にてお知らせしていると説明。福岡県では平成25年に共済互助制

度の廃止が決定しており、他各県において同様に自己申請を基本として郡市の会長の証明書（押印要）にて県歯科医師会で把握している状況。日歯では終身年金において給付中に死亡された場合、年度をもって給付終了とする規定があるが、場合によっては返還が発生するため、各県歯会から早期の連絡が欲しいとのこと。

・ 健康診断の受診状況（熊本）

本県において県歯科医師会が主体で健診事業を開催し委託業者が各郡市まで出向き健診を行っていることで受診率は各県に比べはるかに高い。佐賀県の受診率は２８％で今後の受診率向上が課題。長崎県では66％（40歳以上が約12％）で各郡市歯会に保健事業補助金を交付。福岡、大分、宮崎、鹿児島の各県では国保組合が健康診断を実施し、沖縄県の県歯会では定期総会時に健診を行っており、国保組合でも独自に特定健診、人間ドックを実施。

・ 公益法人改革の進展状況（宮崎）

各県とも委員会を立ち上げ勉強会を開催し、疑問点の検証や専門家への問い合わせ、また日歯の動向をみながら新法人制度移行の検討を行っている段階。

・ 新型インフルエンザへの対応（宮崎）

各県とも県庁、日歯で得た情報を機関紙や定期発送物により会員に周知している。

・ 歯科助手教育（鹿児島）

各県とも講習会を実施。本県では研修会後の就職までカバーできるように検討中。未就業歯科衛生士の講演会に関しては佐賀県と宮崎県が行っているが受講生が少なく講習会受講後就職希望に対する対応に苦慮している状況。

・ 会費減免制度の見直し（沖縄）

各県とも終身会員の増加に苦慮しており・未入会者対策として会費の見直しを検討中。

日本歯科医師会への要望、質問事項および回答については以下の通り

・ 歯科助手教育におけるテキスト（鹿児島）

現在のところ、廃盤になったテキストの販売は考えてないが今後リカバリー研修会の開催で日歯監修のテキストを使用するのであれば配布を検討していくとの返事。

・ 公益法人改革の進展状況（宮崎）

新公益法人制度対応支援業務に関する契約を日歯が新日本有限責任監査法人との間に結び・新制度への移行に備えた公益法人会計基準の適用の検討・各種委員会などへの出席・その他の相談業務を行い、依頼があれば日歯より出向いて説明するので活用してほしいとの事だった。新法人への移行作業を進め、特に保険業法との関係について先が見えない状況。全国申請状況をみても法人数25000件のうち移行認定申請数30件、移行認可申請数９件で日歯だけが路頭に迷っているわけではなく、専門家も断言した結論を出せない状況とのことであった。

・ 新型インフルエンザへの対応（宮崎）

８月31日付けの資料では強毒性について情報を提供していたが、患者に余計な不安を与えないために、またピークも予想より遅れるとのことで慎重に対応している。

以上が会議の内容で、積極的な意見交換が飛び交う会議となり沖縄県歯・玉城委員長の閉会の辞にて終了した。

（厚生・管理　有働　秀一）

さまざまな問題にどう対応していくか

― 九州各県医療管理担当者会 ―

厚生・管理委員会

10月３日（土）午後２時より、鹿児島県歯科医師会館にて九州各県医療管理担当者会が開催された。本県からは前野副会長と池嶋が出席した。

まず、鹿児島県歯の伊地知博史専務理事による開会の辞があり、続いて曽山幸一副会長より挨拶があった。歯科界を取り巻く厳しい環境において、医療管理の範囲は広く、かつ重要である。本日の会議が、有意義な会議となり、明日からの診療に大いに生かされるようにお願いする、との内容であった。

次に日本歯科医師会　中尾薫常務理事より挨拶があった。混迷の中において、医療人として国民に支持して頂けることが重要であり、医療の下支えをしているという理念をさらに持っていろいろな局面に対峙していく。厳しい状況において本日の会議にて様々な意見を頂き、持ち帰り検討していくという内容であった。

出席者紹介、座長・副座長選出のあと、日歯報告があった。内容は次の通りである。

①医療管理・税務関係の会務現況報告、②インフルエンザ関連報告、③平成22年度歯科保健・医療に関する制度及び予算についての要望書、④平成22年度税制改正に関する要望書について。

その後、協議に移った。

（１）平成21年度各県医療管理関係事業計画及び予算……各県より説明

（２）各県提出協議題

①　保健所の立入検査（医療監視）の現況（福岡県）

②　保健福祉事務所による「立入検査」の各県での状況、対応（佐賀県）

③　保健所の医療監視の対応（大分県）

①②③…保健所の検査については各県において検査内容、対応も様々である。

各県、対策書などを作成している。法令を遵守し、かつ取り組みやすい対策書として本県でも「熊本県歯科医師会医療安全管理対策書」を作成（医療対策委員会と共同）

④　労使紛争や労務に関するトラブルや退職後のトラブル（福岡県）

トラブルはほとんどないようだが、業務範囲について（歯科衛生士、歯科助手）の相談が以前より増えている。

⑤　歯科衛生士再就職支援事業（長崎県）

⑥　離職した歯科衛生士の再就職及び教育事業の取り組み（熊本県）

⑦　離職歯科衛生士対策（宮崎県）

⑤⑥⑦リカバリー研修については各県事業が開始されたばかりで、模索段階であるが、必要性は高いと思われる。（本県も10月31日、11月１日に開催）研修後の就職までつながることが課題である。

⑧　歯科衛生士の給与（鹿児島県）

給与については３年制移行後の給与については苦慮しておられるとのこと

⑨　従業員健康診断（長崎県）

長崎県より費用、待ち時間などの問題について相談があった。健康診断は歯科医師会の事業として実施していない県も多い。本県の健康診断の現況を紹介。本県の制度は他県に比べると充実している。

⑩　各県歯における新型インフルエンザ対応（宮崎県）

⑪　インフルエンザ対策（宮崎県）

⑩⑪…インフルエンザ対応については各県苦慮しているようである。各自治体や日歯の対応を参考にしながら、現状に応じた素早い対応と情報の発信が必要である。各県対策本部を設置しているとのこと。

⑫　経営安定のための取り組み（長崎県）

短期的な方策として各県様々な講演会を開催。税務、経営安定、医院活性化など。

⑬　現状に即した会務遂行を目指す為の情報収集手段として県歯レベルでの「会員アンケート」の実施状況とその活用実績（佐賀県）

会員アンケートについては、各県の取り組みが様々である。どのように活用するか苦慮しているとのこと。

⑭　「上手な歯科受診の仕方」（大分県）

⑮　医療機関名について（鹿児島県）

インターネット上での広告について協議。法整備が望まれる。

（３）日本歯科医師会への質問・要望

①　平成23年度のレセプトオンライン請求体制移行への日歯のタイムスケジュールと都道府県歯科医師会における体制作りへの今後の日歯からの施策や情報提供（佐賀県）

回答：日歯連絡協議会の報告にかえさせていただく

②　レセプトオンライン化（宮崎県）

③　歯科助手の資格認定（長崎県）

回答：現在までに25万人の方が資格取得。公的な資格となると全国統一試験の実施・管理、歯科衛生士との業務範囲を明確にできるのか、など問題が多い。

④　公益法人化（鹿児島県）

その後、次期開催県より挨拶があり、閉会の辞と続き、会議は終了した。

（厚生・管理　池嶋　由希）

学校歯科医としてのあり方は

日本学校歯科医会「学校歯科医生涯研修制度」基礎研修

— 学校歯科研修会 —

学校歯科委員会

11月７日（土）午後３時より熊本県歯科医師会４階ホールにて、Ｈ21年度学校歯科研修会が開催された。研修参加人数は154名であった。最初に、日本学校歯科医会・中田郁平会長より「学校歯科保健概論」が説明された。学校歯科保健は、歯・口腔を通じ、保健教育と保健管理の協調の中で「心身ともに健康な国民の育成を期する」活動である。学校歯科医は、医療者の立場だけでなく、教育者の立場の視点を持って、職務を果たさなければならないと解説された。学校歯科保健活動とは、歯科保健教育・歯科保健管理・組織活動からなる。活動概論をスライド等で説明された。

次に日本学校歯科医会・柘植紳平副会長より「保健管理」について講演された。保健管理では①健康診断②健康相談③保健施設設備への指導助言などがあり、健康診断票（歯・口）の記入方法についても述べられた。ＣＯやＧＯの意義や歯列・咬合“２”の規準、歯肉の状態でＺＳ（歯石沈着）があるが歯肉に炎症がないものは、Ｇとせず学校歯科医所見欄にＺＳと記入するなど詳細に説明された。次に休憩後、本県学校歯科・大林裕明理事より「保健教育」について講演があった。先生が校医されている南関第４小学校や障害者施設での活動内容を先知恵―実行―後知恵―実行と長年の具体的な経過を報告され非常に参考になる話であった。

地域との連携を

最後に日本学校歯科医会理事でもある県歯の渡辺賢治専務理事より「組織活動」について講演があった。先生が校医されている美里町との連携活動内容を具体的に説明され、ただ単に健診をしていただけの学校歯科医としてのあり方を大いに反省し、今後、子どもたち・ＰＴＡ・学校・地域とどのように関わり学校歯科医として職責を果たしていくか非常に参考になった。講演も終わり質疑応答の時間となり、多数の先生より質疑が出された。以上今年の学校歯科医基礎研修も盛況のうちに終わり有意義な講習会であった。研修終了後受講者には修了証が手渡された。

（学校歯科　浦田　琢二）

誤嚥での窒息・肺炎を防ぐ

「高齢者及び認知症患者の口腔ケアと口腔リハビリ」
― 介護者歯科実技研修会 ―

センター・介護委員会

10月10日（土）午後２時より県歯会館４Ｆ大ホールにて、日本歯科大学付属病院口腔介護・リハビリテーションセンター長の菊谷武氏をお招きして「介護者歯科実技研修会」が開催された。今回の研修会は歯科医師だけでなく歯科衛生士、介護施設関係者等他職種から多くの参加者があった。

浦田会長の挨拶後、菊谷氏の講演が始まった。要介護高齢者においては、咀嚼器官の欠損によって起こる器質性咀嚼障害と咀嚼に関与する神経や筋肉の障害、口腔失行、前頭葉症状などによって起こる運動性咀嚼障害があり、嚥下障害のため誤嚥を示す患者の80％が口腔期の問題であるということであった。誤嚥は窒息や誤嚥性肺炎を引き起こし、誤嚥を疑う症状として肺炎（発熱）を繰り返す、脱水症状がある、低栄養（徐々に体重が減る）、痰がからんだような声、食事時間が30分以上、食事中食後にむせや咳が多い等があり、鼻咽頭喉頭ファイバー（VE）より食塊が嚥下反射の起こる前にだらだらと気道内に流れ込む嚥下前の誤嚥や、嚥下反射時に喉頭の閉鎖が遅れ気道内に侵入する嚥下中の誤嚥の様子をビデオにて視聴した。そして食事の自立とは口に入れた食べ物の性状を認知し咀嚼して誤嚥なく嚥下できてこそ自立といえるということであった。

認知症患者においては乳幼児期から前頭葉による抑制により消失していた原始反射が抑制解除されてしまい、再度原始反射の出現が起こり、その原始反射の出現度によりある程度認知症の進行を判断できるということであった。

介護へどうかかわるか？

また平成21年度介護保険改正の要点として、口腔機能維持管理加算、経口維持加算の算定方法についての説明があり、介護施設への歯科医師、歯科衛生士の介入の方法として、歯科衛生士の指導のもと介護職員が口腔ケアを実施する方が、特定の入居者に対して歯科衛生士が直接口腔ケアを行うよりも効果が高いということであった。

そして鼻咽頭閉鎖障害に対するアプローチとして軟口蓋挙上装置にて構音障害の改善を図った症例の解説があった。

最後に質疑応答に移り、菊谷氏を困らせるような鋭い質問もあり活発なディスカッションが行われ講演を終了した。

現在高齢化社会が年々進んでおり、介護の現場での歯科医師の役割はより重要になっている。それに対応していくためには摂食嚥下、口腔ケアの分野に関してさらなる研鑽が必要であると感じさせられた研修会であった。

（センター・介護　平井　淳也）

歯科衛生士として社会復帰を

― 未就業歯科衛生士のためのリカバリー研修会 ―

厚生・管理委員会

10月31日（土）と11月１日（日）の２日間（午前９時30分から午後４時30分まで）のコースで『未就業歯科衛生士のためのリカバリー研修会』が、学院校舎にて開催された。今回は未就業の歯科衛生士を対象とした初めての研修会ということで参加人数の予想が立てにくい中で34名の参加があった。

初日は、まず学院の岩切恵子教務主任のオリエンテーションの後、浦田県歯会長より「慢性的に歯科衛生士が不足した状態が続く中、今研修会に参加の皆さんが歯科衛生士として社会復帰されることを期待しています。」との挨拶があった。

まず本会学術担当の牛島隆理事から『最新の歯科医療』という演題で、インプラント治療や審美治療（ジルコニア、ラミネートベニア、ホワイトニング、矯正など）についての講義があった。次に学院の木村浩幸講師から『歯周疾患と治療』という演題で講義が行われた。その中で歯科衛生士の役割がいかに大切で、またやりがいにある仕事であるかということについて話があった。そして長期間のブランクがあっても治療の流れや内容はほとんど変わっていないので、再就職は思っているよりもスムーズにいきますと参加者を励まして終了した。

昼食後は岩切教務主任から『歯科衛生士の業務範囲』という演題で講義があり、平成22年より歯科衛生士養成所は３年以上の教育になり、何が変わって、また業務範囲がどう変化しているのかなどの説明があった。

次に学院専任の大塚めぐみ教員の指導のもと、模型を使用してスケーリング、ルートプレーニングの実習があり、特にグレーシータイプキュレットの使い方の説明に時間が割かれた。最後に歯周病学会の田辺里美認定歯科衛生士から『予防への歯科衛生士の取り組み』と題して、実際に診てこられた患者さんの症例発表を交えた内容の講演があり、１日目の研修会は終了した。

久しぶりの実習で戸惑いも

２日目は、まず学院専任の西口真美教員と野中友紀子教員により『歯科医療における滅菌・消毒・洗浄』、『ＰＭＴＣ』の演題で講義あり、次に学院の逢坂恒彦講師により『フッ化物の応用』の演題で、う蝕の原因は細菌、食物、歯質の３つの因子があり、その予防のために特にミュータンス菌感染防止、断乳(卒乳)、フッ化物の応用法について講義があった。

昼食後は術者役と患者役を相互に行う『相互実習組』、ファントム中心に行う『ファントム実習組』に分かれ、学院専任教員の指導のもとに実習が行われました。初めは戸惑いも見られましたが、次第に慣れて表情にも余裕がでてきたようでした。

実習終了後に再就職支援について説明が行われ、最後に本会の厚生・管理担当の竹下憲治理事より修了証が受講生に授与されて今回の研修会は終了した。

今回の受講生は講義中も終始興味深く聞き入っており、実習でも積極的に参加していた。せっかく頑張って取得した「歯科衛生士免許」を活かしてもう一度輝かれることを期待したい。　　（厚生・管理　境　　俊之）

特別措置法第26条の存続を

― 熊本国税局管内税務指導者協議会 ―

厚生・管理委員会

平成21年度熊本国税局管内税務指導者協議会が、11月13日午後２時から鹿児島県歯科医師会館にて行われ、本県からは竹下理事と瀬井が出席した。

森原久樹鹿児島県歯会長と蓮井義則日歯青申連常任理事の挨拶のあと蓮井常任理事から日歯報告があった。平成22年度の税制改正に向けて、安定した医院経営のために、社会保険診療報酬等に対する消費税の非課税制度をゼロ税率ないし、軽減税率による課税制度に改める事、診療報酬に対する事業税非課税の特例措置の存続等の要望を行なっているとのことであった。

引き続いて協議が行なわれ、管内各歯科医師会からの現況報告と、適正申告推進モデル地区である中津歯科医師会からの活動状況の報告があった。

続いて蓮井常任理事による「租税特別措置法第26条存続に向けて」と題した研修が行なわれた。特措法26条が成立した背景を解説され、現在では、各年又は各事業年度において社会保険診療報酬が5000万以下のとき適用される。平成17年10月の日歯の「社会保険診療報酬の所得計算の特例の利用状況に関する調査報告書」によると調査対象の全施設中における特例適用者の割合は、31.9%となっている。また歯科診療所における所得税と住民税の合計の軽減税額は全国で約200億円となり、特例適用者１件あたり平均減税額は約93.3万円と推計され、第26条の重要性が示されている。現在、更なる低医療費政策のもとで、歯科医療を崩壊させないためには、この特別措存続を強く求めていくとのことであった。

充実した協議会であった

続いて、岡崎剛日歯青申連嘱託税理士により、歯科医業経営についての話があり、措置法適用１診療所あたり保険収入額は平成14年分で2899万円、平成19年分で2786.4万円であり、措置法差額は平成14年分で445万円、平成19年分で357.5万円となっており、保険収入が112.6万円減、特措法差額は87.5万円減となっており、依然として厳しい経営状況が、うかがわれるとの事であった。

15分間の休憩をはさんで、熊本国税局課税部個人課税課課長の福島賢一氏、記帳指導専門官の松元聖二氏をむかえ、第２部が行なわれた。福島氏の挨拶のあと、松元氏が歯科医師の税務調査の状況と誤りの多い事例を紹介され、またE-Taxの有用性についての説明があった。

以上盛り沢山で充実した内容の協議会であり、特措法第26条存続の必要性、適切な税の申告を行なうことの重要性を再認識させられ定刻の午後５時に閉会した。

（厚生・管理　瀬井　知己）

積極的に会員の意識改革を

― 九州各県歯科医療安全対策担当者会 ―

医療対策委員会

10月31日午後２時より沖縄産業支援センターにおいて九州各県歯科医療安全対策担当者会が開催され、当県からは片山理事、冨屋委員長が出席した。

沖縄県歯科医師会・比嘉良孝喬会長の挨拶、日歯・中尾薫常務理事の挨拶、日歯報告の後協議に入った。

１．21年度事業計画書・予算書

各県提出の21年度事業計画書及び予算書について各県の事情に照らして、お互いの次年度事業計画・予算作成に反映させるための精査を行った。

２．各県提出の協議題

各県で抱えている歯科医療安全対策に関わる問題点について他県での対応・意見等を紹介し協議検討を行った。

他県の実態の把握、問題点の指摘、アドバイスを出し合うことにより、各県での問題への取り組みを歯科界の共通の問題として実感する事が出来たと考える。

当県が提出した協議題についての各県の回答を以下にまとめる。

協議題１　医療苦情の多発する歯科医院に対する各県における対応をお聞きしたい。

（福岡県）

ほとんどの事例は各支部の担当者が対応しており、また診療方針に対しては触れられないため、会員に対する指導は行っていない。

（佐賀県）

頻繁に患者からの苦情がある歯科医院については管理責任者と面談して、実情を把握し個々に対応している。

医療苦情の多い歯科医院への対応は

（長崎県）

基本的には委員会が介入する権利も義務もない。ただし、苦情が多発する場合は当該歯科医院に事実を報告し対応を考えてもらう。また、患者の言い分が必ずしも真実とは限らないので、双方の意見を聞いた上で判断する。

（大分県）

患者と歯科医師で言い分に差があるので、特別にその歯科医院に指導及び通知はしていない。

（宮崎県）

本県でも同じ問題で苦慮している。

（鹿児島県）

問題のある歯科医院がないわけではないが、県歯の方へ苦情が多発するといった事例は無い。会員外で複数の苦情を受けた例はあり、その場合は行政に連絡してもらうようにしている。

（沖縄県）

リピーターの会員はいますが、トラブルの原因が様々なため、今のところ注意・喚起等の対応はしていない。

協議題２　医療事故・医事紛争が発生した場合に、会員からの報告形態を伺いたい。

（福岡県）
事例の当該会員は所属郡市の医療事故処理協力委員に委任状と医事紛争報告書を提出し、協力委員は医事紛争報告書を添付し県歯に提出する。

（佐賀県）
医療事故・紛争が発生し当該会員から県歯会に連絡があった場合、歯科医療安全対策部会の担当者が速やかに当該会員に連絡し、概要を聞き面談にて再度詳細を聴く。
また、対策部員に直接連絡があった場合も面談を行い詳細を聴き、所定の医療事故・紛争報告書を提出してもらう。

（長崎県）
当該会員は、各地区の地区責任者に概要を報告し地区責任者は当委員会へ報告する。
当委員会は必要な情報を地区責任者を介して会員へ伝え指導を行う。
最終的に事案が解決した時点で、最終の報告書を提出してもらう。

（大分県）
まず、当該会員は郡市の会長に報告し、その後県歯事務局に報告し担当の県副会長へ連絡し、その後、損保ジャパン担当者に報告し対応する。

（宮崎県）
当該会員は各地区の歯科医師会に連絡し、そこから県歯事務局、委員会メンバーへ連絡され、委員会が対応する。対応が困難な場合は顧問弁護士へ依頼する。

（沖縄県）
当該会員から県事務局へ連絡がある場合と、担当理事あるいは委員会委員に直接連絡がある場合があり、いずれの場合も後日文書にて報告書の提出をする。

３．統一フォーマットによる事例報告・検証
各県より２～４例の事案の報告があり経過・結果の詳細を分析検討を行った。

４．日歯への要望及び質問

デジタルレントゲンデータのコピー開示請求があった場合の対処

患者からのデータ開示請求があった場合は、日歯の見解も各県の見解も原則的に本人確認を前提として、開示せざるを得ないという事で一致したものであった。

５．講演会

演題　アナフィラキシーショック時におけるエピペンの取扱い

アナフィラキシーショック時における補助治療薬としてのエピペン注射液の使用方法とエピペン注射液使用医師登録の方法並びに緊急時におけるAED使用に関する講演が行われた。

６．総括
会議全体において、委員会の目標あるいは委員会活動の趣旨の相違を痛感した。当委員会は、会員に起こる医療事故・紛争・訴訟を限りなく「０」に近づける事を活動の主眼として行っているわけだが、九州の他県の活動は個々の事例に対する対応することのみに終始しており、会員に対する啓発や情報提供が積極的に行われていないのが現状であり、宮崎県を除いてはその方向性の意志も無いようである。
検察審査会に関する法改正により、医療訴訟上で起訴される事案が増加する事が懸念される今日、会員の地位保全を確かなものとするためには、積極的に会員の意識改革を行っていく事こそ必要不可欠な委員会活動と思われる。その点につき当県は今回の歯科医療安全対策担当者会においてメインテーマとして主張を行ってきた次第である。

（医療対策　片山　幸博）

会員の声を会務に反映

― タウンミーティングIN熊本市 ―

広報委員会

11月20日（金）午後８時より県歯会館３Ｆ市歯会会議室において、県歯会長タウンミーティングIN熊本市が開催された。阿蘇郡市、荒尾市につづき第3回目となるこの会は、会員と共に話し合い、会員の声を会務に反映させるための環境作りを目的とするものである。本会の八木理事の司会で会は進行され、はじめに浦田会長よりこのような機会にぜひいろんなご意見を戴きたいという挨拶があった。次に中嶋副会長より歯科疾患管理料の取扱いについての説明の後、渡辺専務理事より２月～７月までの県歯の会務報告がなされた。説明では夢のある歯科界をめざして会員とともに、明るい未来づくりをスローガンに考えられた５つの柱についてそれぞれ説明があった。**経営の安定**ではニーズにあった講演会の開催、**診療の支援**では衛生士のリカバリー研修（第１回目は、34名が参加。今後も継続）、介護予防事業の推進（診療の空き時間の有効利用、在宅を行いたいが行えない会員へのシステムづくり）**組織の強化**では未入会者対策。また会計より各所管に対し、費用対効果の面からも熟慮し再度事業の必要性を見直し、来年度の事業計画に反映させ、事業予算の５％削減を目標とするよう指示があった旨を報告された。また、**会員の融和**ではリアルタイムな情報伝達としてメールニュースの配信、会員の声が直接届く環境づくりとしてホームページの会員専用ページに会員が自由に投稿できるシステムの構築や会長への手紙。**地域社会との連携**で医療・保健・福祉団体との連携。その他に推奨歯科医院制度の名称変更の経緯。また、県歯21世紀プロジェクトは、５～10年後歯科医師会のあり方を考えるもので会長・専務会議などで検討していき、詳細を決めていく予定であることなどが説明された。次に質疑応答では、公益法人改革に関連し、県歯は代議員制をとるのか？に対し日歯とは異なり代議員制でも総会はでき、今までと同じシステムであること。また県歯の発送物が多すぎるのでは？に対しては会員へ発送物に関しては、いかにお読みいただくかが最大の悩みであり、情報をださないのは逆に問題であり、発送物の入れる順番や、紙の色、字の大きさ、裏表に印刷するなどの工夫がなされておりご理解くださいとの説明があった。特措法については、今国会ではでないが、来年の通常国会で提出される可能性もありどうなるかまだ不透明であるとの報告があった。事業税・特措法に関するわかりやすい解説書を作成中）今、とにかく日歯では来年の診療報酬改定を最重要課題に考えているとのことであった。最後に八代と阿蘇で行われる県民公開講座について、また来年度点数改正説明会をH22年３月28日県立劇場で行う予定であることが話され本日の会は終了した。

いろんな御意見を

（広報　加藤　久雄）

九地連厚生行事

剣　道　九地連剣道大会

　この剣道大会に出るようになって、もう23年になりますが、学会はおろか、沖縄以外観光もした事はありませんでした。土曜日は同窓会、日曜日は試合で、終われば熊本へすぐ帰るというパターン。今回は「せっかく大分まで来て、別府の温泉に入らにゃもったいなか」という気持ちで、主将会議（主将ではないのですが）の後、同窓会には出ずに、別府へと向かいました。別府駅近くの「竹瓦温泉」へ行き、しばし旅の湯舟に浸りました。大分での大会で、こうしてのんびり過ごすのは、初めての経験でした。それにしても、かつての歓楽街もシャッターが閉まり、人通りも少なく、何かもの悲しい感じがしました。

　さて次の日の剣道大会の結果は、団体２位（優勝は宮崎県チーム）、個人２位中嶋隆志選手、同３位三森康弘選手でした。２年連続で優勝できなかったのは、私がこの大会に参加して初めての事です。なかなか優勝が難しくなってきました。でも三森君が３位になったのは、来年への励みになり、本人も自信ができたと思います。

　剣道の理念というのがあって、まあ何の為に剣道を続けるかという事ですが、「剣道を通しての人間形成の道」と説かれています。

普段そんな事を考えながら、稽古をやっている訳ではありませんが、心の奥にはそれがあります。試合が終わって、西田先生とテニスの大会を見に行ったのですが、何か和気あいあいという感じで、楽しそうでした。君が代斉唱から始まり、一同礼で終わる剣道の試合とは随分と違うんだなあと感心しました。我々歯科医は剣道が本業ではありませんので、本当に楽しくできるようになればいいなあと日頃思っています。まあ人それぞれ剣の道がありますが、これからも修業です。

（田ノ上　輝）

ボウリング　ボウリング大会

―いざ、決戦の地は大分！―

　わが熊本県歯ボーリングチームは少数精鋭。2人チーム戦2チーム、4人チーム戦1チーム出場である。総勢4人だ。決して人数が集まらなかったわけではないぞ！今年は勝負に徹しようと、誘惑の多い大分の夜を避けるため、朝から出発した。決して、もみだいじゃない、飲みだいをケチった訳ではないぞ。一人大分の夜の「魔」に取り付かれたやつがおって、ぐぜっておったが。菊竹先生の車にみな相乗り。菊竹先生は午前3時半に人吉を出発。以後八代で2人、玉名で一人を拾って、地獄の明け方寝不足運転。鳥栖を過ぎたあたりで夜明けを向かえ、朝日に向かって車は大分目指して突っ走った。

　まぶしかった。大分あけのボール。前回ここで九地連を戦ったときは熊本勢は大いに面目躍如した。8人で乗り込んで、うち7人は手に余るほどの賞品を手にしたのであった。飛び賞ではあったが。他県の選手から「何で熊本はそぎゃん景品があたっとや。」と揶揄されたもんだった。「ばかめ、運も実力のうち」そう、高らかに笑ったもんだったが……

　結論を言いましょう。今回はだめでした。

飛び賞全滅。試合結果は参加総数100人中、宮井が個人戦6位入賞。個人総合12位。井手尾先生が同13位。４人チーム戦は惜しくも6位（２５チーム中）浦田会長、小島副会長を始め応援に来てくださいました皆々様、思い通りの結果が出せず誠に申し訳ありません。来年の佐賀大会は任せてください！（部費はよろしくお願いします。）

（宮井　祐）

九地連厚生行事

野　球　「準決勝敗退、連覇ならず」

― 第62回九地連野球大会 ―

10月18日（日）、大分県別府市の別府市営市民球場で、第62回九州歯科医学大会野球大会が行われた。1回戦の鹿児島戦は山口の好投で突破したが、準決勝で大分に敗れて惜しくも連覇は逃した。尚、永年表彰功労賞で宮本名留彦が10年表彰を受賞した。

1回戦

山口完投。3年連続の初戦突破

鹿児島	0	1	0	0	0	0	0	1
熊　本	1	0	0	0	1	1	X	3

（鹿）中園―村川
（熊）山口―渡辺洋
▽二塁打　白澤（鹿）

初回二死満塁から井野の中前打で1点を先制するが、すぐに同点に追いつかれた。その後は膠着状態が続くが、5回に上田の四球を足がかりに河合の中前打で1点を勝ち越し、続く6回には西の左前打で1点を追加した。山口は最終回に内野の連続失策でピンチを招くが、後続を断ち切り完投勝利を挙げた。

準決勝

河合1失点完投もノーヒットノーランを喫す。

大　分	0	0	0	0	1	0	0	1
熊　本	0	0	0	0	0	0	0	0

（大）矢野剛―武藤晃
（熊）河合―渡辺洋

両投手の好投によりスコアボートに0を並べたが、5回に安打で許した走者を盗塁と暴投で三塁に進められると、相手3番打者の左前打で1点を奪われた。熊歯は4回に四球と振り逃げの走者を出すのが精一杯であった。2年前の沖縄では、山口が同じ相手にノーヒットノーランを達成したが、その時のお返しをされた形になった。

プレーイングマネージャーの上田監督

昨年の猛打爆発に比べると打線が低調であったが、鹿児島県、大分県両投手の出来がよかった。しかしながら、敗れたといえ河合の気迫に満ちた投球は見事であった。結果は残念であったが、3月の活動開始に始まり、部員一同大きな事故なく野球を楽しむことができたことが何よりである。

謝辞：会場まで応援に来て頂きました浦田健二会長をはじめ執行部の方々に厚くお礼を申し上げます。

参加者：菅原、藤本、上田、有田、中山、河合、渡辺洋、吉崎、右山、村上、井口、井野、井上、西、宮本、椿、山口

（追記）
9月23日　第20回6県対抗野球大会試合結果
熊本県民総合運動公園野球場B
福岡西5－0熊本
熊本　9－3福岡南
ＭＶＰ　宮本、木屋

※詳しいスコアテーブルは熊歯野球部ホームページを参照して下さい。

（井上　真樹）

九地連厚生行事

テニス

輝く４連覇！

― ３年連続AB両チーム優勝！時代の流れは、熊本へ ―

＜おやじ一行＞

熊本県チームの大分乗り込みは、去る10月17日（土）午後であった。隊長友枝は、バンド演奏のため、別行動。おのずと本隊の指揮は、大塚がとることになる。いわずとしれた無法者。宿泊先の別府に到着すると、先陣をきっていた小野・飯田の温泉ツアーに負けまいと数人を引き連れて、本隊も温泉へ。もちろん、城井・豊田の女性陣も、すでにおやじ一行の一員である。途中もわがままし放題の後に、旅館でのふぐ三昧。おやじ一行の夜は長かった。

＜ABCチーム＞

翌日の試合当日は、晴れ。いままで、良いコンディションがなかった大分大会。前回大会でも大雨の中、試合を行い優勝を飾っているので、大分大会での連覇がかかり、また、宮崎・沖縄・福岡からの４連覇もかかっていた。当日、雨はないものの、海沿いのため風が強いという、老人にはつらい環境。今回、九地連史上最年長優勝を狙う深水と無法者の大塚をAチームにいれるという無謀なチーム編成。もちろん、他の山根・山口（一）・八木・山口（英）の４人の実力がぬきんでているため、安心はしていた。前日からふぐを食べ、大酒を飲み、温泉に入り、見事旅行気分を味わった、小野・高松・飯田・城井・豊田のおやじ一行と、バンド演奏で陶酔しきった御大友枝で構成されるお気楽Bチームは、当初より敗者復活戦狙い。そして、はぶ酒木村と今回から参加の三隅は、他県との混成Cチーム。それぞれが、楽しく今日の夜に酒が飲めることをめざし、試合に突入した。

予定とおり、Aチームは、実力差があるため、快勝に次ぐ快勝。また、B・Cチームは、あえてか、実力でか、予選リーグ全敗を喫し、敗者復活へ。ここまでは、ABCチームともに予定通りである。

＜副賞がかかる＞

試合が続くにつれ、結果が報告される。そして、なんと、敗者復活戦の決勝は、お気楽Bチームと混成Cチーム。因縁とは恐ろしいもので、ここで勝つと負けるとでは、大違い。勝たないと副賞がもらえない。がぜん、目の色をかえる両チーム。三隅・木村ペアは、高松・飯田ペアとあたり、巌流島の様相。打ち込む三隅・走る木村。一方前日の酒がたたり、すでに疲労がみえる高松・飯田ペア。試合はせりあいながらも、年の功ではなく、テニスで一日の長のあった、高松・飯田ペアが押し切り、他ペアとの結果とともに、敗者復活戦で見事Bチーム優勝。副賞を手にした。

熊本連覇の雄姿

＜手負いの八木＞

もちろん、重要なのは、本戦優勝。優勝カップの持ち帰りである。今回、腰を痛め、サーブの調子が素人なみの八木が、完全なるブレーキ。なんとか、決勝まで、無難に駒をすすめたものの、決勝の相手が、初優勝を狙う好調佐賀チーム。負けるという“まさかの坂”は、ないとは思うものの、決勝は、ABCチームともに同時に試合を行うため、だれも応援できない状態。少し早く始まったBCチームの試合が終わり、Aチームのコートにいくと、黒山の人だかり。やっぱり、本戦決勝は違うなと、思いきや、がぜん接戦白熱中。左うちわペアの深水・大塚は、善戦するも負け。大塚曰く、“勝てた試合だった。”しかし、負けた！山根・山口（英）ペアは、今大会好調を維持し、難なく快勝。すると、残り１勝で優勝なのだが、いつもは快勝する山口（一）・八木ペアが一番苦戦。手負いの八木が、ブレーキだった。つられて、ペアの山口にも精神的不安が波及し、いつになく、がくがくの試合運び。試合は、タイブレークにまでもつれ込み、どちらが勝ってもおかしくない状況に追い込まれた。ここまできたら、神頼み。みんな、心に願いながら、一球一球を見送る。最後に勝ったのは、山口・八木ペア。常勝熊本をつなげたのである。八木は、優勝の喜びより、A級戦犯にならなかったことへの安堵感があった。

温泉に入り、近くの焼き肉での即日パーティ。試合を酒の肴にしながら、肉をたらふくたいらげた。キムチがうまかった。今回の戦績に安堵しながら、熊本への凱旋の帰路についた。熊本連覇とおやじツアーは、佐賀へと続く。

（高松　尚史）

郡市会だより

歯周治療についてもう一度考える

― 第２回学術講演会 ―

下益城

9月16日（水）19時30分より、ウイング松橋視聴覚教室において、菊池市の林康博会員をお招きし、「歯周治療についてもう一度考える―治療結果の確認と経過観察について―」と題し、学術講演会が開催された。

現在、日本人の約80％が歯周病に罹患していると言われており、例えば、30代では40％、40代では50％、50代では60％が早急に治療を行わなければならない歯周病に罹患していると言われている。おまけに歯周病は、治療後も継続したメインテナンスを行っていかないと再発を起こしてしまう病気であり、そのメインテナンスを含めた治療を行うためには、今の歯科医師、歯科衛生士の数では全く足りないとさえ言われている。では、我々歯科医師が十分な歯周治療を行っているかというと、そうとも言えず、ある調査では「全国の歯周病患者のうち、十分な治療を受けているのは甘く見積もっても全体の４％だけ」という報告もあると述べられた。

講演中の林康博会員

近年の歯科医師の増加による経営圧迫やカリエス数の減少で、従来の「詰める・かぶせる」という経営形態が成り立たなくなって来ており、それを打開する意味において歯科医院の経営安定も8020達成も、そのキーワードは「歯周治療」にあるということであった。長期経過症例を提示しながら、治療目標をきちんと立て、その結果と経過を必ず追うことが重要であると述べられた。

我々が日常行っている歯周治療とはどうしてもいわゆる「保険治療」に沿って流れていく傾向にある。日頃我々が、「ちゃんとした歯周治療が出来ているのかいないのか？」を問い掛けられ、耳が痛いのと同時にもう一度日頃の歯周治療の診療体系について考えさせられる講演内容であった。

（右山　裕則）

昔の偉人に感動

― 研修旅行 ―

人吉

10月24日（土）から25日（日）まで、宮崎・日南海岸、飫肥の旅が行われた。台風が接近しており、天気も曇りだった。バスに乗り込むと直ぐに、ビールによる宴会が始まり、６回のトイレ休憩をこなしながら、宮崎の焼酎や、伊勢えびを中心とする名産の海産物を、休憩所で早々と買いながら、宿泊所の南郷プリンスホテルに到着した。その日の夜は宮崎の海産物に舌鼓をうった。翌25日は、飫肥城を観光した。那須会員の計らいにより、日南市教育委員会の岡本武憲さんに、飫肥の案内をしていただいた。日南の偉人、小村寿太郎の説明が行われた。小村寿太郎は日露戦争後ポーツマス条約を、成立させた外交官で、生涯自分の家をもたず、日本の為に生涯を費やした人だそうだ。話の中で、昔は地方の人間は高度な教育を受けることが難しく、各藩からも数えるほどの人しか、都会での教育は受けることができず、小村も、飫肥13代藩主、伊東

あいにくの天気だった

祐相や藩校の教導、安井息軒の支援もあり大学南校（現東大）に貢進生として入学した。その事がのち日本を支える小村を育てたと言う。日本には、物質的資源が乏しい、では日本は何の資源があるのか？答えは人間である。少子化が進む日本にとって教育がもっとも次世代の日本人への遺産でしょう。昔の日本の偉人に感動した２日間だった。

（瀬戸　雄行）

郡市会だより

むし歯供養祭始めて半世紀

― 第51回歯牙供養祭 ―

10月３日（土）２時より天草市の本渡南公園『歯恩の碑』前の特設会場にて第51回歯牙供養祭がおこなわれた。今回は毎回引き続き行われる天草歯科学会の特別講師の九州歯科大学歯周病制御再建学分野の久保田浩三助教授も参列戴いての開催となった。

森口専務の開会の辞の後、本妙寺住職のお経が上げられる中、会員が次々に焼香を行った。そして久々山会長による祭文の奏上が行われ、その中で「天草でむし歯供養祭を始めて半世紀、むし歯は減少傾向にある一方、成人の七割以上に歯周病があると言われ、社会の認識も生活習慣病として捉えられつつあり、地域住民に対する「啓発」「理解」を深めていく努力がまだまだ必要である。」と述べられた。半世紀に渡って受け継がれるこの行事は、日々忘れがちな感謝、謙虚さを思い起こさせてくれる良い機会である。

焼香を行った

（槌本亮二郎）

天草

嚥下に困っていませんか

― 嚥下教室 ―

10月11日（日）午前10時から肥後銀行天草支店コミュニティーホールにて、財団法人長寿開発センターの助成事業として、主催が特定非営利活動法人天草ボランティアセンター、後援が天草郡市歯科医師会による講演と実技指導を伴う嚥下教室が開催された。

「カミカミゴックン・嚥下（飲み込み）に困っていませんか」のフレーズで、飲食でむせてしまう方、介助してご飯を食べさせている方、歯ブラシさせても上手に磨けない方、口が開かないため中まで磨けない方、これら色々悩みがある方への対応ということで参加者が募られ、天草の医療関係者や、介護事業関係者、歯科関係者など、90名の参加があった。

講演は言語聴覚士の野田　洋氏による嚥下機能にかかわる部位の解剖学的説明の講演から始まり、次に天草郡市の松本信久会員より高齢者の重篤な肺炎や発熱の原因の多くが嚥下障害による誤嚥や不適切な口腔ケアにあるということで、口腔ケアの大切さと嚥下の仕組みや注意点、高齢者の現状などの講演が行われた。

その後、鹿本郡市の歯科衛生士の有志である「歯りきり隊」による嚥下体操と生活習慣での注意点が、肥後にわかの寸劇にて上演され、会場は大爆笑に包まれながらも分かりやすいと大好評でした。

ハイ、あーんして

実習では、歯科衛生士会の協力によるブラッシング指導と、参加者同志でペアを組み、クルリーナブラシ、モアブラシを用いて口腔内清掃の実習が行われ、参加者は初めての体験の方ばかりで悪戦苦闘しながらも熱心に取り組んでいた。

高齢化が進むこれからの社会において、嚥下の問題と口腔ケアは歯科にとってますます重要になると思われ、今回の嚥下教室のように他業種の方との交流を含めこういう事業には積極的にかかわる必要性を感じた。

（内崎　祐一）

郡市会だより

政権交代で行政に期待！

― 臨時総会 ―

10月22日（木）午後６時30分より白鷺荘別館において平成21年度臨時総会が行われた。開会に先立ち今年５月にご逝去された長洲町開業だった山本巌会員への黙祷が捧げられた。続いて冨永会長より挨拶があり、自民党から民主党への政権交代により歯科界に関わってくる影響や２年後実施予定のレセプトオンライン化について柔軟な対応が必要になってくるのではということであった、また前執行部の増田憲元前会長、城井陽子前監事、福田義朗前監事に記念品贈呈が行われた。続いて議長、副議長が選出され、平成２１年度上半期の会務報告から各郡市会長・専務会議報告、代議員会報告、評議員会報告、国保委員会報告を担当者から報告があり、そのまま議事に移った

○第１号議案
　平成21年度（社）玉名郡市歯科医師会会計歳入歳出決算（案）の承認を求める件

○第２号議案
　平成21年度玉名郡市歯科医師共済互助会決算（案）の承認を求める件

○第３号議案
　平成21年度玉名郡市歯科医師連盟、KDMU決算（案）の承認を求める件

会議の報告をされる冨永会長

第１～３号議案については会員からの承認を得ることが出来た、最後に平成20年度の収支決算会計監査が適正あることを監事から報告があって総会を終了した。総会終了後懇親会会場に席を移して楽しい宴のひと時を過ごした。

（山本　浩喜）

玉名

堪能！黒豚しゃぶしゃぶin鹿児島

― 会員旅行 ―

10月24日～25日、毎年恒例の玉名郡市歯科医師会会員旅行が行われた。昨年が北海道旅行で遠方地だったので、今年の行き先は隣県の鹿児島に決定した。

題して「秋の鹿児島・黒豚しゃぶしゃぶざんまい」＆「涙の知覧特攻基地見学」＆「篤姫ゆかりの島津家探訪」の旅である。

24日午後１時半、玉名駅前に集合した一行はチャーターバスに乗り込み、意気揚々と出発した。まず、昨年の大河ドラマで脚光をあびた篤姫の縁の地仙巌園（磯庭園）を訪ねた。桜島そのものを景色の一部とした大相優美で、かつスケールの大きな庭園であった。すばらしい景色に日頃の診療で疲れきった心身を癒され、また同時に少々歩いて空腹になった一行は懇親会会場の「あぢもり」に向かった。ビールを片手に黒豚しゃぶしゃぶを心ゆくまで堪能し、すっかり満ち足りた気分で、「リッチモンドホテル鹿児島天文館」で床についた。

さて、一夜明けてホテルで朝食を済ませた我々は９時に知覧特攻平和会館をめざした。

桜島をバックに仙巌園にて

愛する祖国、家族を守るため若くして特攻機に乗り、その尊い命を太平洋に散らせた方々を悼みつつ昼食を摂り、最後に知覧武家屋敷を生憎の雨の為バスから眺めた。

いつもの福岡天神とソフトバンクホークス観戦も良いが、鹿児島も奥深くてなかなか楽しい所だとバスの揺れと、旅の疲れでうとうとしながら思い、午後５時頃無事玉名駅に到着した。

（西村　真悟）

郡市会だより

混戦を抜け出し玉名が制す

― 荒玉親睦麻雀大会 ―

玉名

秋の夜の肌寒さを感じる11月６日（金）の７時30分、日頃鍛錬し腕に覚えのある、荒 玉地区の雀士達16名が玉名市 内の雀荘「麻雀クラブ立願寺」に集合した。

荒　玉たがいに会の名誉と威厳を懸けて、戦いの幕は切って落とされた。ルールは各50分間時間限定の半チャン３回勝負、持ち点の合計で勝負を競い合った。あちらこちらの卓でハネマン賞の声が飛び交うもなかなかそれ以上があまりでないシュアーな戦いであった。

火花を散らさんばかりの乱戦　混戦を制して、逆転で優勝を飾ったのは田畑会員　、惜しくも２位だったのは、久々の参戦でも腕の衰えを感じさせない大林会員であった。

１位と２位との差は100点と大接戦であった。

優勝をかざった田畑会員

団体戦は荒　玉上位３名の合計点で争われ、玉名がからくもが勝利した。

ちなみに玉名の雀士達はこの結果に満足できないのか、疲れが残る試合後も練習を行うのであった。　（永廣　有伸）

荒尾

夢のある歯科界ををめざして

― 県歯タウンミーティング ―

11月10日（火）荒尾市医師会館に於いて、月例会終了後午後８時より県歯タウンミーティングが開催された。今回のタウンミーティングは、阿蘇郡市に続いて県下２回目の開催となる。総務担当の八木理事の司会のもと、先ず浦田会長より歯科界を取り巻く政治情勢の変化、ことに政権交代により中央政府は民主党、地方は自民党というねじれ現象の中、県歯及び日歯の対応の展望についての談話と、レセプトオンライン化の今後の見通しについて述べられた。

続いて渡辺専務より会務報告が為された。先ず県歯の基本方針について「夢のある歯科界をめざして　明るい未来づくり」のスローガンのもと、経営の安定、診療の支援、組織の強化、会員の融和、地域社会との連携、という５つの柱について詳述した。続いて各委員会の業務内容の紹介、安心・安全歯科医療推進制度、熊本県歯科医師会21世紀プロジェクトについて述べた。

最後に荒尾市会員から事前に寄せられた質問について、浦田会長からの回答の時間がとられた。質問内容は、日歯年金について２題、次期参院選の対応について、民主党国会議員

懇切丁寧な回答がなされた

との今後についての県歯の意向、マスメディアを使った啓蒙活動の予定があるか、県の運用可能な財産と運用の予定について、国保保険料について、の計７題について資料を用いて懇切丁寧な回答が為された。

リーマンショック以降の世界的景気低迷の中、国内の経済情勢も先行きは不透明であり、我が歯科界を取り囲む状況は更に厳しさを増しています。何をなすべきか考える時、解答を導き出すのは容易でないのは明白である、まず業界でいかに一丸となれるかということを考えた時、非常に頼もしいリーダーの姿を目の当たりにした。

（馬場　一英）

郡市会だより

グルメな２日間を満喫！

― 研修旅行 ―

八代

11月７日（土）８日（日）、「宮崎グルメツアー」と銘打って恒例の研修旅行が行われた。初日はステーキハウスにて西都牛を味わい、２日目は地カキ料理を堪能しようというこの企画、八代を代表するグルメハンター水上副会長と守永常務理事が自腹を切って下見に行かれるという気合の入れように我々の期待も高まるばかりである。診療を終え午後２時に集合したメンバーは総勢25名、日頃の行いが良いのであろう雲ひとつない晴天＆11月とは思えぬ暖かさ。大型バスのゆったりとした座席に座りビールを飲みながら緑の鮮やかな景色を眺めていると凝り固まった日頃の疲れが吹っ飛んでいく。軽く酔って幸せな気分のままバスは目的地ホテルマリックスに到着した。しばらく休憩し、６時からはいよいよお待ちかねの晩餐会、場所はホテル２階の八点鐘、なんと「鉄板焼」、しかも「貸切」である。鉄板焼なんて何年ぶりだろうか、企画された先生方に感謝！皆、興奮状態で着席後、まず「日頃のうっぷんを晴らそう！」と一番たまってそうな増田会長が挨拶され、その後若槻会員の発声で乾杯、いよいよ豪華ディナーの始まりだ。

美しい前菜と魚介のグリルに舌鼓を打ち、渇いた喉にビールを流し込むとさあ準備万端、後はメインの西都牛の出番を待つだけである。そしてシェフが見事な赤身のブロックを持って登場すると各テーブルから歓声が上がる。焼きに入り流れるような手捌きに感嘆しつつサイコロ状にカットされた西都牛を口に入れると、、、あふれる肉汁に口中はまさにパラダイス！焼き加減も絶妙、とろける柔らかさ、最高である。これ以上何を望むことがあろうか？締めのガーリックライスまで皆綺麗に平らげ大満足！

食事の後は２次会まで準備されていてもう至れり尽くせり。美味しいものを食べたからであろう皆上機嫌で話は盛り上がりあっという間に宮崎の夜は過ぎていった。

翌日はまずおみやげの買出しに出発。バスに乗り込むと隣の席の増田会長から昨夜は２次会の後さらに寿司屋、うどん屋とハシゴし、結局６次会まで行き最後はコンビニで締めたという武勇伝を聞かされた。さすがです、会長！このバイタリティーがあれば八代歯科医師会も安泰ですね!?

それから宮崎神宮に参拝、来年こそは良い事がありますようにとお参りし、地カキ料理の老舗「磯亭」へと向かうのであった。
海岸に面した民宿風の建物の大広間に一同着座、酢の物、刺身、カキフライ、焼きガキと次々に運ばれてくる。どれも旨そうだ。

、、、ここで言っておかなければならない事がある。実は私はカキアレルギーなのだ。もともと大好物だったのだが突然、食べた後シャレにならない状態に陥るようになったのである。よっぽど普段の行いが悪かったのだろう（汗）

という訳で周りの感想を聞くとカキの身は小粒であるが潮の香りが立ち上り濃厚な味わいだった（らしい）、また焼き方も絶妙で固くならずふっくらとしていた（らしい）。本当に美味しそうで、、、くやしいですっ！替わりの白身魚フライ定食を食べながらいつかアレルギーを克服してやると心に誓ったのだった。

しばらくくつろいだ後、バスに乗り込み一路八代へ、グルメ旅行はフィナーレを迎えた。楽しい時間はあっという間に過ぎ去るものですね。美味しいものを食べると明日への活力が漲ってくると思う。企画された水上副会長、厚生委員の先生方、贅沢なひと時をありがとうございました。

（岩崎　晃司）

歯の健康ランド　オーラルクイズや人形劇も行われる！

11月1日（日）、熊本県若手歯科医師新樹会の年間最大のイベント「歯の健康ランド」が熊本市動植物園にて開催された。

当日の天気予報は雨。早朝からの準備も終わり、動物園の開園に合わせたかのように雨が降り出しました。

それでも、新樹会会員、中島学園の学生、（株）サンスターのスタッフ、ラビッツ（ステージ上で歌っていたお姉さん）、イベントスタッフの協力のもと、健康ランドイベントを遂行することができました。

また、今年もKAWARYO九州から、ちびっこ達へおもちゃの提供があり、その完成度の高さにみんなかなり興奮していました。

結果的には、昨年の参加人数をはるかに下回りましたが、悪天候にも関わらず、大勢の親子連れの方々に参加していただきました。参加者の多くは、ブラッシング指導、フッ素

洗口、検診を順番に受けられ、特に親御さん方の口腔内に対する意識の高さには、毎年のようにこちらが驚く場面も見られました。

そして、恒例のステージショーでは新樹会ドクターとラビッツとのオーラルクイズ、中島学園の学生さんによる人形劇とブラッシング指導などが行われ、少ないながらも子供達の元気な声が会場内に響いていました。

そして、第17回目の「歯の健康ランド」も無事にフィナーレを迎えました。終わる頃には空は晴れ渡っていて、少し悔しい気もしましたが、十分な充実感と共に動物園を跡にすることができました。

最後になりましたが、このイベントにご参加ご賛同いただいた全ての方々に感謝いたします。

また来年、動物園でお会いしましょう。

（関　光輝）

お知らせ

※年末年始の事務局休業のお知らせ

仕事納め	平成21年12月28日（月）午後５時・業務終了
年末・年始休業期間	平成21年12月29日（火）平成22年１月３日（日）
仕事始め	平成22年１月４日（月）午前８時30分・業務開始

訃　　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

片山 豊二先生
平成21年11月19日　ご逝去　53歳

- 郡　市　名：菊池郡市
- 入会年月日：昭和61年12月23日

広報活動に多大な御貢献と御指導いただいた片山豊二先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。　（広報委員会）

（広報委員会　委員長　任期H15．4．1．～H18．3．31）

①今もっとも関心のあることは何ですか。
②自分が希望する歯科診療とはどのようなものですか。
③他の歯科医院にはない自分の医院の特色を教えてください。
④今後の抱負は何ですか。

一般会員

郷原　賢次郎
（ゴウハラ　ケンジロウ）
合志市須屋1983-7
田上ビル１Ｆ

菊南ハーモニー歯科クリニック

①新型インフルエンザの流行による受診抑制への対応
また、スタッフの感染予防対策
②自分の家族に提供したいと思う治療をすべての患者さんに提供できればと考える
③すべての治療のベースに予防歯科を据えた診療
④患者のニーズに応え、地域歯科医療の発展に貢献したい

前田　貴代江
（マエダ　キヨエ）
宇土市高柳町20-9

パール歯科クリニック宇土

①子育てと仕事の両立です。
②患者様に治療して良かったと思っていただけるような診療をしていきたいと思います。
③私が矯正科出身なので矯正治療もできることかと思います。
④早く地域の皆様に溶け込めるようにしていきたいと思っています。
よろしくお願いします。

会長の動静 11月

日付	曜日	時間	行事内容	場所
11月2日	月	19:00	第15回常務理事会	県歯会館
11月4日	水	15:00	第7回日歯対外PR小委員会	日歯会館
		17:00	第6回日歯広報正副委員長及び小委員長打合会	日歯会館
11月7日	土	15:00	平成21年度学校歯科研修会	県歯会館
11月8日	日	13:00	ベストスマイル・オブ・ザ・イヤー2009授賞式	東京・丸ビル
11月10日	火	20:00	タウンミーティング（荒尾市）	荒尾市医師会館
11月11日	水	13:00	第7回日歯ホームページ企画小委員会	日歯会館
		15:00	第7回日歯対内広報小委員会	日歯会館
11月12日	木	13:00	天皇陛下御即位二十年県奉祝式典	熊本城・奉行丸
11月13日	金	19:00	第5回連盟幹事会	県歯会館
11月14日	土	14:00	四国・九州・中国地区役員連絡協議会	島根・ホテル一畑
11月17日	火	17:30	さわやか長寿財団事務局長との面談	県歯会館
		19:00	第16回常務理事会	県歯会館
11月18日	水	19:00	学院講師会議	学院校舎
11月19日	木	13:00	第10回日歯理事会	日歯会館
11月20日	金	20:00	タウンミーティング（熊本市）	県歯会館
11月21日	土	15:00	新入会員研修会	県歯会館
11月23日	月	10:00	故片山豊二会員（菊池郡市）告別式弔辞奉呈	合志市
11月24日	火	19:00	第9回理事会	県歯会館
11月25日	水	15:00	第7回日歯広報正副委員長及び小委員長打合会	日歯会館
11月27日	金	15:30	第697回支払基金幹事会	支払基金
		18:00	中島学園との懇談会	KKRホテル
11月28日	土	16:00	熊大附属病院歯科口腔外科創立50周年記念式典・講演・祝賀会	ホテルキャッスル
11月29日	日	10:00	厚生・管理講演会	県歯会館
11月30日	月	19:00	第6回国保理事会	県歯会館

会務報告

自　平成21年10月23日
至　平成21年11月18日

所管	日付	摘要	出席
総務	10月23日	総務委員会（1）タウンミーティング　（2）新入会員研修会　（3）県歯事業中間評価　ほか	八木理事、永田委員長他全委員
	26日	第696回支払基金幹事会（支払基金）	浦田会長
	27日	故井手一之会員（熊本市）告別式弔辞奉呈（熊本市）	浦田会長
		第8回理事会（1）新入会員の承認　（2）天皇陛下御即位二十年奉祝活動への協賛並びに式典等への出席（20名）依頼　（3）各委員会の平成22年度事業・予算立案に伴う助言事項　ほか	浦田会長他全役員
	28日	第3回熊本空港緊急計画連絡協議会（くまもとエミナース）	浦田会長
		歯科医療安全管理体制推進事業検討会（1）事業概要　（2）事業予算　（3）アンケート結果報告　ほか	浦田会長、前野副会長、西野常務理事、片山・竹下理事他4委員
	30日	第1回県後期高齢者医療運営協議会（県市町村自治会館）	中嶋副会長
		第2回裁定審議委員会	上三垣委員長他全委員、浦田会長、前野副会長、渡辺専務理事、片山・八木理事、冨屋委員長
	11月1日	陸上自衛隊西部方面隊五十四周年記念式典・祝賀会（陸上自衛隊健軍駐屯地）	前野副会長
	2日	第15回常務理事会（1）事業企画案（社保・医対・学術合同、総務）　（2）平成22年度事業計画案（総務）　（3）平成22年1月、2月、3月の行事予定　ほか	浦田会長他常務理事以上全役員、八木理事
	4日	第7回日歯対外PR小委員会（日歯会館）	浦田会長
		第6回日歯広報正副委員長及び小委員長打合会（日歯会館）	浦田会長

所　管	日　付	摘　　要	出　　席
総務	4日	歯科医療安全管理体制推進事業小委員会医療対策書作成	前野副会長、片山理事他2委員
	5日	第2回総合政策推進プロジェクト会合　(1)未入会者対策　(2)未入会者・会員アンケート	小島副会長、西野・伊藤常務理事、堀田委員、黒木・添田会員
	6日	月次監査	遠山・片山監事
	8日	ベストスマイル・オブ・ザ・イヤー2009　授賞式（東京・丸ビル）	浦田会長
	9日	歯科医療安全管理体制推進事業小委員会　(1)医療対策書作成	前野副会長、片山理事他2委員
	10日	歯科医療安全管理体制推進事業小委員会 (1)ポスター作成 (2)チェックシート (3)修了証　ほか	西野常務理事、竹下理事他2委員
		タウンミーティング（荒尾市医師会館）	浦田会長、渡辺専務理事、八木理事
	11日	第7回日歯ホームページ企画小委員会（日歯会館）	浦田会長
		第7回日歯対内広報小委員会（日歯会館）	浦田会長
	12日	天皇陛下御即位二十年県奉祝式典（熊本城・奉行丸）	浦田会長、小島・前野副会長、澤田事務局長
	14日	第8回警察歯科医会全国大会（ANAクラウンプラザホテル新潟）	前野副会長、緒方・矢毛石・犬束会員
		四国・九州・中国地区役員連絡協議会（島根・ホテル一畑）	浦田会長、中嶋副会長、渡辺専務理事、伊藤常務理事、澤田事務局長
	16日	歯科医療安全管理体制推進事業小委員会　(1)歯科医療安全管理冊子作成	前野副会長、片山理事他2委員
	17日	第16回常務理事会 （1）新入会員の承認　（2）平成22年度事業計画案（総務） （3）平成21年度第2回各郡市歯科医師会会長・専務理事会議の運営　ほか	浦田会長、常務理事以上全役員、八木理事
	18日	都道府県専務理事連絡協議会（日歯会館）	渡辺専務理事
		九州調停委員大会（県立劇場）	前野副会長
		九州調停委員大会懇親会（ホテルキャッスル）	前野副会長
		歯科医療安全管理体制推進事業小委員会	西野常務理事
社会保険	10月24日	社会保険個別相談会　相談者：1名	勇・前田理事、田中委員長他7委員
		社会保険委員会（1）会員向け発行物　（2）個別指導立会い　（3）個別相談会　ほか	中嶋副会長・勇・前田理事、田中委員長他7委員
	28日	社会保険・医療対策合同委員会　(1)社保・医対合同講演会	田中委員長、冨屋委員長他2委員
	31日	シニア倶楽部社会保険研修会（受講者数：38名）（熊本ホテルキャッスル）	浦田会長、中嶋副会長、勇・前田・牛島理事他3委員
	11月7日	社会保険個別相談会　相談者：2名	前田理事、田中委員長他6委員
	12日	保険個別指導（KKRホテル）	前田理事
	14日	社会保険個別相談会（1）相談者：1名	反後副委員長・金本・橋本委員
地域保健	10月29日	第3回笑顔ヘルCキャンペーン打合せ会	宮坂常務理事、田上・加藤理事、川瀬委員長他
	11月1日	歯の健康ランド（熊本市動植物園）	宮坂常務理事、加藤理事
	2日	笑顔ヘルCキャンペーン無料歯科健診〔荒尾市〕（至9日）（荒尾市会員診療所）	荒尾市会員
	7日	笑顔ヘルCキャンペーン無料歯科相談〔宇土郡市〕（宇土シティ）	宮坂常務理事
	8日	笑顔ヘルCキャンペーン無料歯科健診・相談〔上益城郡〕（嘉島町・ジャスコクレア熊本店）	宮坂常務理事
		笑顔ヘルCキャンペーン中央イベント（熊本市・上通ぴぷれす広場）	前野副会長、渡辺専務理事、宮坂常務理事、田上・加藤理事、川瀬・立本委員長他4委員

所　管	日　付	摘　　要	出　　席
地域保健	14日	笑顔ヘルCキャンペーン無料歯科健診・相談〔八代〕（やつしろハーモニーホール）	職員2名
		笑顔ヘルCキャンペーン無料歯科健診・相談〔天草郡市〕（栖本福祉会館）	小田副委員長
	15日	笑顔ヘルCキャンペーン無料歯科健診・相談〔玉名郡市〕（九州看護福祉大）	桐野委員
厚生･管理	10月24日	下益城郡健康診断（宇城市・働く婦人の家）	兼子賢之会員
	31日	未就業歯科衛生士リカバリー研修会（1日目）　1日目受講者数：29名（学院校舎）	浦田会長､伊藤学院長､竹下理事他1委員
		シニア倶楽部　参加者数：38名（熊本ホテルキャッスル）	浦田会長他常務理事以上全役員、勇・前田・牛島・竹下理事他5委員
	11月1日	未就業歯科衛生士リカバリー研修会(2日目)2日目受講者数:32名　2日間総数:34名(学院校舎)	竹下理事、境委員
	11日	厚生・管理委員会（1）歯科医療安全管理体制推進特別事業（2）講習会（3）熊本国税局内税務担当者協議会　ほか	竹下理事、池嶋委員長他4委員
	13日	熊本国税局管内税務指導者協議会（鹿児島県歯会館）	竹下理事、瀬井委員
	17日	厚生・管理講演会リハーサル	竹下理事、有働副委員長、他3委員
	18日	第3回県へき地保健医療対策に関する協議会（熊本テルサ）	竹下理事
広報	10月23日	TKU広報番組「医療あれこれ」収録　11月4日放送分（口腔保健センター）	加藤理事
	30日	テレメッセ打合せ（1）11月12日放送内容打合せ	宮坂常務理事
		広報小委員会（1）会報11月号第2回校正	加藤理事、立本委員長他3名
	11月9日	テレメッセ打合せ（1）11月12日放送内容打合せ	宮坂常務理事
	12日	NHKテレメッセ出演（NHK）	宮坂常務理事
	16日	広報委員会（1）会報12月号編集	加藤理事、立本委員長他全委員
	18日	NHKとの打合せ（1）来年度の番組構成会議（NHK熊本放送局）	宮坂常務理事
学校歯科	10月24日	福岡県学校歯科保健研究大会（福岡県歯会館）	渡辺専務理事
	28日	第7回日学歯理事会（京都市）	渡辺専務理事
	29日	全国学校歯科保健研究大会（至30日）（京都市）	渡辺専務理事
	30日	学校歯科委員会（1）学校歯科研修会　（2）学校歯科保健推進大会　（3）ホームページ　ほか	大林理事、岩本委員長他全委員
	11月7日	平成21年度学校歯科研修会　受講者：154名	浦田会長、前野・中嶋副会長、渡辺専務理事、田上・大林理事他全委員
	18日	第8回日学歯理事会（日歯会館）	渡辺専務理事
医療対策	10月31日	九州各県歯科医療安全対策担当者会（沖縄県歯会館）	片山理事、冨屋委員長
	11月11日	医療対策小委員会（1）社保との合同講演会資料検討　（2）通知書の検討	冨屋委員長他1委員
	13日	医療対策委員会（1）事例報告検討（2）九州担当者会議報告（3）裁定審議委員会報告　ほか	片山理事、冨屋委員長他5委員
	18日	医療相談	片山・勇理事、冨屋委員長
センター･介護	11月13日	県介護予防研修会（県庁）	松岡理事
学院	10月23日	学院入学試験委員会（1）平成22年度入学試験実施要項（案）　（2）合格・不合格通知	浦田会長、伊藤学院長他5名
	24日	学院推薦入試　受験者数：56名（指定校推薦14名、高校推薦42名）	伊藤学院長他5名
	28日	学院入試委員会（1)平成22年度推薦入学試験合格者数（2)平成22年度合格者の決定（合格者47名）	浦田会長、伊藤学院長他5名
	31日	学院推薦入試合格者発表　合格者：47名	
	11月9日	学院1・2年生体育大会（県立体育館）	伊藤学院長
	11日	学院教務委員会	伊藤学院長他6名
	12日	第31回九州ブロック専門学校体育大会　ソフトテニス（学生2名）（大分）	小原副主任
	18日	学院講師会議	浦田会長、伊藤学院長他6名、講師24名
国保組合	11月16日	組合地区国保運営協議会事務研修会（県医師会館）	澤田事務局長他3名
	18日	国民健康保険組合被保健者全国大会（明治記念館）	矢毛石監事

社団法人　熊本県歯科医師会 会員のみなさまへ

会員専用 グループ保険制度のご案内

Ⅰ. 団体定期保険（死亡保障プラン）会員・配偶者
＜災害保障特約＞

Ⅱ. 新医療保障保険（団体型）（医療保障プラン）会員・配偶者・こども
＜手術特約/家族特約/家族手術特約＞

グループ保険制度の7つの特徴

- お手頃な保険料で、死亡保障・入院保障を準備できます。
- 入院1日目から保障の対象となります。（医療保障プラン）
- 保険期間は1年で、毎年保障の見直しができます。
- 配偶者・お子様も会員ご本人とセットでお申込みになれます。
  ※団体定期保険は配偶者のみとなります。
- 医師の診査がなく、告知書の提出のみで簡単にお申込みになれます。
- 団体定期保険・新医療保障保険（団体型）それぞれ剰余金があれば、配当金として還元されます。
- 付帯サービス（健康コール24などのサービスを無料で利用できます。）（医療保障プラン）

申込締切日：毎月15日

申込書提出先：熊本県歯科医師会　事務局

1 行事予定

4日（月）	事務局仕事始め
5日（火）	第 19 回常務理事会
17日（日）	第 15 回熊本県歯科医学大会
19日（火）	第 20 回常務理事会
26日（火）	第 11 回理事会
30日（土）	学院戴帽式

編集後記

新型インフルエンザの流行、覚せい剤汚染、凶悪・残忍な事件の多発など、暗い出来事の多い世の中での急激な冬型の天気に身体が着いていかない今日この頃です。是非、元気の出る、楽しい投稿をお待ちしております。

(N.T)

発行日／2009年12月15日発行
発行人／浦田　健二
発行所／社団法人　熊本県歯科医師会
〒860-0863 熊本市坪井2丁目4-15
TEL　096-343-8020
FAX　096-343-0623
URL http://www.kuma8020.com
印刷所／コロニー印刷